

この部屋は、瑞巖寺の宗教的な行事を営む中心となっていた場所で、伊達一族の位牌が納められ、法要などの仏教儀式が営まれていた。この部屋がいかに重要であったかは、その間仕切りの天井の高さに見ることができる。この部屋は扉に描かれた壮大な孔雀にちなんで、孔雀の間として知られている。春、夏、秋、冬の四季は、右側の入り口から反時計回りに描かれている。天井からぶら下がっている布は、東西南北を守護している四天王を表している。襖の上の欄間の彫刻には、迦陵頻伽と呼ばれる音楽に身をささげた、上半身が人で、下半身が鳥の生物が刻まれている。これらの風景や生物は浄土を表現しており、Pure Landとしても知られている悟りの領域を表している。